

しょうとくたいし あの聖徳太子が教科書から姿を消す？

このコーナーで、7回にわたって聖徳太子の行跡をたずねた。日本人なら誰もがその名を知る、日本古代史最大級の偉人「聖徳太子」かつて旧一万円札の代名詞でもあり、「一度に10人の話を同時に聞き分ける」など、その生涯における超人的エピソードは、1400年の時を経て今日に語り継がれている。もちろん、「憲法十七条」や「冠位十二階」「遣隋使の派遣」など、彼の成し遂げた偉業の数々は誰もが教科書で学んだ覚えがある。

親鸞聖人は、聖徳太子を「和国の教主」日本のお釈迦さまと崇められ、200首もの太子を讃える和讃をお作りになっている。また、真宗の寺院では、全寺院、聖徳太子のご影を奉安し太子と接している。

わこく きょうしゅうしゅうしやうとくおおう こうだいおんどくしや
和国の教主 聖徳王 広大恩徳謝しがたし

いっしん きみょう はうきんさんふんたい
一心に帰命したてまつり 奉讃不退ならしめよ

『意訳』 日本の教主である聖徳太子の広大な恩徳は謝しつくし難い。二心なく太子の言葉にしたがい、阿弥陀如来に帰命し念仏し、いよいよ怠りなく讃嘆しよう。



近代の古代歴史学の進歩は進んでいることは理解するが、「聖徳太子は実在しなかった」と云われてみると驚きかない。

いったい聖徳太子はおられたのですか？
おられました。でも、「聖徳太子」と私たちがお呼びしているこの名前は、本名ではない。確認しておきたいことは、正式な名前は、「厩戸王（うまやど）」で、この厩戸王は実任の人物です。聖徳太子は、彼の功績をたたえ人々が後世になり彼に贈られた名前であるとのことだ。何かすつきりしない解答で、歴史学という学問の世界と、庶民の生活慣習まで一つにせねばならぬのだろうか。

報恩講ご案内

今年は、宗祖親鸞聖人没後756年にあたります。秋深まる11月は、年に一度の報恩講と云われますように、真宗門徒にとりまして年中最大のお佛事を迎えます。正行寺では、今年は下記の通り御まします。報恩講に向け練習していますコーラス会員の皆さん職歌で参加します。是非ともご参詣たまりますよう、ご案内申し上げます。 台 華

日程 11月10日(土)～11日(日)

講師 大阪阿倍野区・即応寺前住職 藤井善隆氏。 満日中の法話正行寺 前住職

十日(木)	2時 始め お選夜 お勤め ご俗姓拝読 法話	夕 6時始め～7時 御伝 鈔	夜 7時 始め 初夜 お勤め 法話 藤井善隆氏
十一日(金)	朝 7時 始め 慶朝 お勤め 法文拝読 法話(前住)	2時 始め 満日中 お勤め 法話	夜 7時 始め 続いて コーラス発表

有井、正行 寺